

英国政府、13万本の都市樹木の植林のため補助金の支出を発表

この度、英国政府の環境長官マイケル・ゴープは向こう2年間に13万本以上の都市樹木を植えるために£1,000万（14億円）補助金の支出を発表しました。

これは、都市樹木チャレンジ基金を通じて、2022年までに100万本の都市樹木を植えるという政府の目標を達成するのに役立ちます。

より多くの木を植えることは気候変動に打ち勝つために、非常に重要であります。なぜなら、木は炭素を貯蔵し、私たちの町や都市をより回復力のあるものにするのを助けることができるからです。都市部の木々は、健康と幸福を増進し、人々を屋外と結びつけ、騒音を吸収し、洪水の危険性を減らし、日陰で気温を下げ、そしてコミュニティが集まるための緑地を作ります。

この計画は森林委員会によって管理され、個人、地方自治体、慈善団体、NGOに開放されます。補助金は、将来の繁栄を確実にするために、木の植え付けと最初の3年間の世話を充てられます。

環境長官マイケル・ゴープは次の様に語っています。

「木は気候変動との闘いにおいてきわめて重要です。そのため、植栽率を上げるためにはもっと早く行動を起こさねばなりません。私たちは、緑と日陰にするだけでなく、自然界の不思議を堪能し、それがもたらす健康と福祉のためには、私たちの街や町の通りに並ぶ樹木が必要です」。

政府のツリー・チャンピオンのSir. William Worsleyは次のように述べています。

「木は私たちの国の生命線であり、それらが私たちの田舎だけでなく、私たちの町や都市にも根付いていることを実感にすることは、これまで以上に重要です。都市の木を植えることの利点は無限大です、そしてこの基金に参加して私たちの町や都市を緑にする手助けを望む人なら誰にでも奨励します。助成金はチャレンジ・ファンドとして提供されますが、市民からの寄付金も歓迎致します」。

林業委員会委員長のSir. Harry Studholmeは次のように述べています。

「林業委員会がアーバン・ツリー・チャレンジ基金の提供を求められたことを嬉しく思います。この基金は、森林委員会がイングランドの樹木や森林の拡大を図るためにやっている作業の重要な部分です。それは私たちが住んでいるところや仕事をしているところ、そして木の多くの利点を感じて頂きたいと思います。私達はこの秋に起こるたくさんの新しい植栽を楽しみにしています」。

イギリスのコミュニティ・フォレストの議長であり、マージー・フォレストのディレクターであるポール・ノーラン氏は次のように述べています。

「私たちの町や都市を、自然が繁栄するのに適した場所にするために、木や森林が果たす役割についての理解が高まっています。今後 25 年間で、さらに多くの木を植える必要があります。英国のコミュニティ・フォレストは、政府が発表しているこの新しい投資を歓迎します」。

コミュニティ・フォレストの立ち上げは、人々が自然とつながり、自然を守り、向上させるのを助ける、政府のグリーン・アクション年の一環です。この取り組みは、子供や若者を中心に、未来への遺産を浸透させるという、政府の 25 年環境計画の一部を成しています。

今後、政府は森林の拡大を約束しており、今年は森林の創出を加速し、私たちの時代の最大の環境優先事項に取り組むため、フラッグ・シップ環境法案を導入するための新しいイングリッシュ・ツリー戦略について国会審議が予定されています。

ロンドンは「緑の街」と言っても過言でなくらい至る所に公園があり、道路は歩道と街灯、街路樹がセットで、看板もなく家並の高さと外観が統一されており、電柱もないので、すっきりした感じを受けます。写真の様に公園の樹木や街路樹も既に十分に根付いて出来上がっている感じがしますが、当局から見るとまだまだ緑化が不足していると思われるとは驚きです。今回の政治家や関係者のコメントを読むと、樹木に対する思いは、思い付きの発言でなく、子供のころから育てて来た緑豊かな環境を当たり前とは思わず、更に進化させ様としている姿に、驚きをかくせません。



ロンドンのターミナル駅前公園の樹々



ロンドンの住宅街の街路樹



日本の歩道も街路樹もない電柱の林立する道路と歩道も街路樹もない住宅街

翻って、日本を見ると、狭い道路をさらに狭くする電柱とあふれる看板類に自販機と雑多な風景に、街路樹の話をするのもはばかります。いずれにしても英国並みの街並みになるには、100年経っても追いつかないかもしれません。一体都市計画はどうなっているのか！為政者に聞いてみたい思いです。（了）